

希望

☆2学年通信☆

小樽潮陵高校
1学年通信
第20号
2015.8.19(水)

☆進研模試を振り返る☆

本日、第一回進研模試の個人成績表が返却されました。全国平均から見た自分の位置や全国順位、各教科で分野ごとの分析が掲載されています。結果を見て一喜一憂するのは人の常ですが、冷静に振り返り、分析して模試を存分に咀嚼してください。

以下の質問に答え、今後の行動に活かしていきましょう。

- Q 1 振り返りシートの点数と実際の点数を比べてどのくらいの差異があったか
(正確な自己採点力は受験本番でも大切な力である)
- Q 2 自分の強みと弱みを理解しているか。
(物事には順序と優先順位がある。何から復習を始めたらいいか自己分析を深めて学習すること)
- Q 3 模試の模範解答冊子を見て、各教科の復習は終わっているか。
(同じ「タイプの」問題といつか出会ったときに正解することができるか。
そういう状態になるように繰り返して頭に入れておくこと)

さて各教科の先生方から、分析と今後の方策を書いていただきました。是非参考にしてください。

数学

各設問の結果分析は以下の通りです。

- ・第1問〔小問〕20点(本校平均点14.6点 得点率73.0%)
ここはノーミスで完全解答したいところです。内容は、因数分解、2次関数の最大・最小、場合の数、データでした。場合の数(色の塗り分け)は考えさせられる問題でした。データは、「第3四分位数」の定義がわかっていないと、なにもできません。数学の公式や定義などは、繰り返し学習していくことにより定着していきます。教科書の内容をしっかりと確認しましょう。
- ・第2問〔場合の数と確率〕20点(本校平均点10.4点 得点率52.0%)
袋に入っている11枚のカードから、2枚取り出す事象についての問題でした。(2)は、「和が偶数」=「2枚とも偶数or2枚とも奇数」、(3)は「和が偶数and和が9の倍数」=「和が18の倍数」と言い換えられる力を見ています。また、条件付き確率の考え方 $P_A(B)=P(A \cap B)/P(A)$ が身についているかどうか問われています。数学は、どんどん易しい表現に言い換えられるようになるとグンと伸びてきます。今回の確率は、問題の設定が難しくはないので、これも是非得点しておきたいところです。本校の得点率は約半分ですから、もう少し演習が必要なようです。4STEPの確率を1日1題解くなど、目標を立て実践すると良いでしょう。

- ・第3問〔図形と計量(三角比)〕20点(本校平均点4.9点 得点率24.5%)
三角比の問題で、「正弦定理」がメインの問題です。(2)では、 $\triangle OBC$ に余弦定理を使っても外接円の半径Rは求まりますが、「二等辺三角形を見たら真っ二つに分けよ」という格言が身につけていれば、「三角比の定義」だけで解くことができます。また、(3)では、「 $PA=PB=PC$ である三角錐PABCの頂点Pから底面ABCに下ろした垂線の足は、 $\triangle ABC$ の外心となる」という頻出事項を、証明付きで定着していることが必須です(昨年、この問題のタイプを演習しているはず)。本校の得点率が24.5%と、もっとも苦戦した問題でした。今回の問題は良問かつ頻出であるため、この問題を何度も繰り返して解いて定着させてください。

- ・第4問〔式と証明・高次方程式〕20点(本校平均点9.1点 得点率45.5%)
(2)の因数分解は、 $P(1)=0$ から、 $P(x)$ は $x-1$ を因数にもつことを利用することが大切です。また、「虚数解をもつ $\Leftrightarrow D < 0$ 」を使って解きます。(2)までは完答したいところです。(3)は難しかったと思います。その原因は条件が $\alpha^2=2\beta$ という、非対称な設定だったからです。満点でなくても、「解と係数の関係」くらいは記述して部分点を稼ぎたいところです。難関と呼ばれる進学先を目標にしている人は、この問題もできるように努力してください。

- ・第5問〔図形と方程式〕20点(本校平均点8.1点 得点率40.5%)
(2)は、問題の設定がやや複雑でした。問題文を図に書き込んで考えることにより、円と直線のときによくある「三平方の定理の活用」が思いつくでしょう。(2)(3)を合わせて強引に計算する力技! ?も可能です。いずれにしても、円Cの中心と円Kの中心を通る直線は、弦ABの垂直二等分線であることに気づくことがポイントです。(2)からやや難しい問題でしたが、得点率40.5%と健闘しました。

全体的には全国偏差値を見る限り、本校の過去5年間で最高(偏差値56.5)であり、順調に学力が身につけてきていると言えます。1年1月(偏差値56.8)から見ると、偏差値60以上の者(78人→72人)、50~60の者(103人→88人)、偏差値50未満の者(45人→54人)と、学年内では下がってしまいました。ただ、2年生からは数学については、科目が数学Bと数学A(やや易)の選択となり(うちは数学B)、1年時と母集団が違いため、一概には下がったとは言えません。大切なのは「今後の取り組み方」でしょう。模試の一番大切なことは、定期考査と同様に受けっぱなしにしないことです。模試の判定に一喜一憂するだけでは全く模試を受ける意味がありません。出来なかったときこそ、「自分の弱点が見つかってありがたい」という気持ちで徹底的に復習しましょう。本日返ってきた答案を元に、出来ていなかった問題について、もう一度きちんとノート(「テスト復習ノート」など)で書き直しましょう。解答と共に、問題のポイントや自分の盲点・弱点などを色ペンなどでどんどん書き込んでいくと良いでしょう。受験直前までには、このノートは最高のオリジナル参考書になるはずです。

2年生も中程に入り、今後は指数・対数関数や三角関数、ベクトルなど新しい分野も続々登場します。後でまとめて学習しても間に合いません。分野が多岐に渡っていますから、後回しにせず2年生で学習する事項は2年生で身に付けると共に、1年生の内容も、弱点分野を中心に計画的に繰り返し触れていきましょう。今後

授業を軸に教科書や4STEPで基礎力を固める

↓
講習等で「実践に近い演習」+「解説」で理解を深める

↓
テストで力試し

↓
結果を分析し、苦手分野を克服

という学習サイクルを継続してってください。数学の定着には、努力が必要です。また、努力の果てには、時として虹が出現するような瞬間があり、楽しみを味わうこともできます。その瞬間に出会えるよう、今後も応援します。

国語

今年度 1 回目、2 年生最初の進研模試の結果が返却されました。国語の平均点偏差値は「53.6」ということで前回の 1 年生 1 月模試の平均点偏差値「55.3」から残念ながら低下しています。また、過去 4 年の 2 年 7 月模試平均点偏差値の平均が 54.0 程度ですので、それよりも低い偏差値になっています。その原因について分析します。

まず、問題の難易度ですが、今回実は今年の 2 学年の全体得点率は「45.3」点です。これは、過去 4 年の 7 月模試の 2 学年全体得点率平均が「42.5」点なので、得点率としては過去 4 年最高の数値となっています。にもかかわらず、平均点偏差値が上がらないということは、今回の問題は全国の得点率も上がっていて、(本文の難易度は別として)設問としては全体的には対応しやすい設問であったと言えます。私も小説分野を除いては、全体としてはやや平易ではないかと感じました。そういった意味で、この得点率は過去 4 年との比較では高くなっているものの、得点率としては伸びを欠いたと思います。

次に分野別の得点率についての分析です。実は今回国語 4 分野の評論・小説・古文・漢文すべての分野で 2 学年の得点率は全国平均を数%上回っています。その点ではバランスはとれているのですが、逆に分野として大きく得点率を伸ばした分野がなかったとも言えます。さらに細かく分析すると、今まで比較的得点率が高かった小説・漢文分野が今回得点率としての伸びを欠いているということがわかりました。

ただし、小説分野については今回特に全国の得点率も約 33% とかなり低くなっています。原因は本文が過去の模試と比較してもかなり長文で、女性の複雑な心理を描いており、記述問題の内容を含めて難易度の高い設問であったことによると思います。本校の得点率は約 36% ですが、全道の他進学校で一番得点率が高い所でも 40% 程度なので、やはり設問として全体的にかなり難しかったと思います。そういった意味では 2 年生の小説理解力が落ちたと一概には言えません。ただし、本文中に該当箇所が見つけれられる設問ばかりなので、解ける範囲です。問四は、比喩を具体的に説明する設問ともいえるので、今後そのような意識で同様の問題に対応するとよいと思います。今回特に気になるのは、今まで本校生は小説分野である程度得点できていたので、この問題に時間をかけすぎた生徒は全体としての時間配分をミスし、古典分野に時間を十分に割けなかった可能性があることです。そのミスをした生徒は、今後時間配分や問題の解き順をより意識しましょう。

次に、評論に関しては「デザインの教科書」という作品が出題されました。全国の得点率が約 53% に対し、本校の得点率は 57.3% でした。できれば 60% 以上の得点率がほしい問題でしたが、全体的な得点率が高いので、今後このレベルの問題を 60% 以上得点できるように過去問演習等を繰り返したいと思います。

古文については、全国の得点率が約 38% に対し、本校は 43.5% の得点率、漢文は全国の得点率が約 35% に対し、本校が 39.5% でした。いずれも全国の得点率より 5% 程度高い数値ではありますが、本校 2 学年生の能力から考えると物足りない数字です。他校との比較においても、他進学校では古・漢分野 45~50% 近い得点率となっている高校が多く、今回の全体偏差値の低下もやはり、この分野の力不足が大きく起因していると考えられます。今回は、本校生なら最低でも 5 割程度の得点率が期待できるレベルの問題だと思いました。古文問一～問三は、朝テストや課題で、基本単語や文法事項をどれだけ身につけているかが問われる、落とさないでほしい問題です。漢文問一は、「読み」「意味」共に重要です。「50 語プリント」で、再度、読み・意味を復習しましょう。問三は、夏期講習でも触れた反語表現。疑問・反語は問われる確率は高いと思ってください。今後、課題や小テストの内容・難易度

を変えたり、授業・平常講習等を通じてより読解力や得点力をつけられるような指導をしていきたいと思います。

夏休みの講習は古文・漢文の講習をやりましたが、その中でも古文の文法力や漢文の句法力の力は生徒によって様々なレベルがあることを実感しました。しかし、講習をきちんと受けた生徒の中には、確実に講習の中で知識を吸収し、本文読解に生かせる力をつけていた生徒がいることも感じました。今後、そういった感覚が学年全体として感じられるようにしたいと思っています。

英語

- リスニング 得点率 44.4% 《全国平均を数ポイント上回っている》
リスニングは授業では週 1 回わずかな時間しか取り扱っていないので家庭学習で時間をとって集中的に取り組むことが大事。リスニング力をつけるにはたくさん英語を聞くこと。英検の準 2 級～2 級の教材を使うのも効果的。
- 発音・アクセント 得点率 37.5% 《全国平均を数ポイント上回っている》
発音問題の頻出語は Next Stage 最後にまとめてあるので一度目を通しておくこと。またアクセントは身の回りのカタカナ語がよく出る（今回は“アスリート”“タレント”“スタンダード”など）。正しく発音できるように授業中の音読練習もおろそかにしないこと。
- 文法・語法 得点率 43% 《ほぼ全国平均と同じである》
文法・語法・熟語は知っていれば必ず得点できるので、Next Stage を何度も読み返して頭に入れること。単語だけ、熟語だけを暗記するのではなく英文の中で覚えることも大事。（7 の表現力へもつながっていきます）
- 長文読解 得点率 43.2% 《全国平均を上回っている》
- 長文読解 得点率 63.5% 《全国平均を上回っている》
わからない単語一語・一文の理解につまずかず、全体の話の流れを把握できるようにする。わからない箇所があっても推測しながら読み進める練習を Cross Beam や教科書でコツコツやっていく。
模試の解説にある Words & Phrases は重要語句ばかりをまとめているので、かならず復習すること。
- 表現力 得点率 42.6% 《全国平均を数ポイント上回っている》
4 と同様に Next Stage の文法・熟語を覚えた上、自分で表現できるかが鍵。英語表現Ⅱのテキストで出題される英作文は普段からしっかり取り組むこと。また様々な題材で書く練習を積むことも大事。

まとめ

できるか、できないかではない。やるかやり切るかだ。単語・熟語・語法のインプットを増やして英語力の土台を強化していこう！

A man is not finished when he is defeated.

A man is finished when he quits.

～人は負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのだ。～